

令和4年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立 白鳥中 学校

NO. 1

	評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	学校関係者評価	今後の改善点
授業改革・授業改善		<ol style="list-style-type: none"> 1 互いに支え合い、ともに高め合い、活動できる生徒を育成する授業研究 研究授業年3回(指導主事招聘) 2 指導方法の工夫 「めあて」と「ふり返し」の質の向上 一人一台端末を活用した「わかる授業」「伝える授業」の指導方法の研究 3 生徒・保護者・教員用のアンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台パソコンの活用の成果は大きいと思います。また「わかりやすい授業」の数字があがったことは、嬉しいことだと思います。先生方ありがとうございます。 ・わかる授業を進めてほしい。また、専門家によるICTの使い方、また、自分で作るプログラムなどがあれば、行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間で、目指す生徒像を具体的にイメージして共有していくことに、まだまだ課題が残る。 ・ICT端末持ち帰りについて、家庭学習の推進と端末の活用をどう結び付けていくか検討が必要である。 ・一人一台端末の活用について、教員も生徒も活用頻度が増えた後は、「使うこと」だけでなく「使うことで深まる学び」にも視点をあてて活用例を検討していきたい。 ・「めあて」と「ふり返し」の定着は図られたが、個々の取り組みで終わっている現状がある。「わかる授業」「伝える授業」の実践に継続して取り組み、手立てや活用方法の有効性を教職員間で共有する必要がある。
		成果と課題（達成状況を含む）		
		<ol style="list-style-type: none"> 1 年3回（9月、11月、2月）に研究授業を実施した。 2 生徒への一人一台の活用が進み、教職員同士の研修やICTの支援員の活用により、コロナ禍におけるオンライン授業をほぼ円滑に進めることができた。また、長期休業中における課題として、端末利用により提出するなど活用が進んだ。 3 生徒・保護者・教員アンケートの活用 		
学力保障		<ol style="list-style-type: none"> 1 学力向上推進委員会を中心とした取組 家庭学習の充実、家庭との連携（ノーメディアデー等） 2 定期テスト前の補充学習、長期休業中の学習支援 3 自主学習ノート(白文鳥)を活用した全校的な学力向上の取組 学調・みえスタ過去問演習、学Vivaの活用 全国学力・学習状況調査自校採点・分析（小中連携の視点も） 4 全校読書の励行 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査の結果から、表現に課題があるとのこと。それを来年度の研修のテーマに位置付けていると伺いました。PDCAが位置付けられているので、先生方の力がついていくと思います。 ・図書館がより寛げる（レイアウトとか）環境になると良いですね。予算面で厳しいとは思いますが、寛げるソファとか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査やみえスタディチェックで実施した国語・数学・理科の結果から、「根拠となる事柄を明確にして自分の考えを説明すること」に課題があると考えられる。継続して、学Vivaの活用や各教科での課題を意識した授業実践など、生徒の学力向上に努める。 ・朝の読書やブックトーク、学級文庫の設置などの取組を進め、読書活動の充実を図る。また、図書館巡回指導員や図書館ボランティアの方々と連携し、生徒にとって親しみやすい図書館となるよう、環境を整える。 ・学校運営協議会の場で地域の方にも現状を知っていただく機会を得られたことで、より地域と学校との連携を進められたと感じる。
		成果と課題（達成状況を含む）		
		<ol style="list-style-type: none"> 1 学力向上委員会と校内研修を合併して授業改善等について取り組んだ。 2 定期テスト前、夏季休業中に補充学習を実施した。 3 自主学習ノート(白文鳥)を毎朝提出させ、状況を確認している。金曜課題の取組（5月から）として学調・みえスタ過去問演習、学Vivaを活用している。また、全国学力・学習状況調査、みえスタディチェックの結果分析し、各教科での取組を進めるようにしている。 4 図書館巡回指導員による図書館の利用の仕方のオリエンテーション・ブックトークを実施した。 		
特別支援教育		<ol style="list-style-type: none"> 1 すずかっ子支援ファイルの作成と活用（生徒理解） 2 支援会議の積極的開催 3 関係機関等との連携 ※SC, SSW, 教育支援課（さつき教室、けやき教室）、子ども家庭支援課、児童相談所、医療施設等 4 「支え合い高め合う」学級づくり 5 教育相談期間を年3回実施した。家庭訪問等の充実 ※SCによるコンサルテーション、教育委員会等とのケース会議等 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援ファイルの活用・周知は、特に保護者にとっての安心につながると思います。特に新年度に向けて、負担も多いとおもいますが、フォローの継続をお願いします。 ・生徒の支援にかかる情報が、「すずかっ子支援ファイル」で共有され、支援学級で授業される先生方の実践を通して、さらに蓄積されていると思います。外部機関の活用もされています。手厚い支援が行われていると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「新たな不登校を生まない学校づくり」のために、教員の研修会や、相談部会からの働きかけを充実させていきたい。 ・本年度、教育相談部会に教育支援課の先生や不登校アドバイザーが参加し、個々の生徒についての確に細かいアドバイスをいただくことができた。次年度以降も継続できればと考えている。 ・すずかっ子支援ファイルの教職員間での情報共有を確実にし、保護者や生徒の思いを十分にくみ取っていききたい。 ・今年度のように、支援学級の授業に多くの教員があたっていると授業のフォローもしやすいので継続したい。 ・来年度は支援学級の在籍の生徒が増加するので、協力学級の授業の時にどのように支援するのが課題である。
		成果と課題（達成状況を含む）		
		<ol style="list-style-type: none"> 1 年度当初から1学期末にかけて支援の手立てを考え、学年内及び保護者と支援方法を共有できた。 2 支援会議で、情報共有や、今後の支援の在り方について、保護者と一緒に考えた。 3 通級指導教室担当者との連携を密にした。また、スクールカウンセラーによるコンサルテーションを充実させた。教育相談部会に教育委員会にも入ってもらい、助言を受けた。 4 学級の状況に応じて、SST等を実施した。 5 コロナ禍であったが、例年通り学期に1回ずつ教育相談期間を設け、実施することができた。 		
教職員の健康		<ol style="list-style-type: none"> 1 総勤務時間の縮減 過重労働平均一人当たり月平均月45時間を超える時間外労働者 一人当たり年間休暇取得 設定した日の定時に退校できた職員の割合 放課後に行う会議の時間60分以内に終了した割合 2 OJTの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動による総勤務時間への影響は、市や県、国の問題であり、現場での対応は難しいところです。過重労働平均月24.45時間というのは、1日1時間程度ということ。よく工夫されていると思います。 ・先生方の働き方の見直しはとても良いと思う。どんどん若い先生も増える中で、時代に合った対応が必要だと思います。 	<p>過重労働の削減は全体として進んでいるので、職員一人ひとりが工夫をしながら仕事を行っていることがわかる。全体的に、できる限り効率的に仕事を進めようという工夫はしている。過重労働の要因として、部活動の時間、特に休日の部活動の時間が多くを占める。また、担当によっては時期によって処理に時間がかかってしまうこともあるが、その用務がない時は、できる限り早く退勤しようと心がけてもらっている。</p>
		成果と課題（達成状況を含む）		
		<p>過重労働削減をしようとして工夫はしてもらっているが、時期によって、業務が増えてしまったり、偏ったりすることがある。定期テストの時に、定時退校日を設定し、定着しつつある。資料を事前に配付し、会議の時間の短縮を心掛けている。</p>		

令和4年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立 白鳥中 学校

NO. 2

	評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	学校関係者評価	今後の改善点	
生徒指導		<ol style="list-style-type: none"> かかわりを大切に取る取組 あいさつ運動、積極的な声かけ、小グループの活用、学級づくり 自律、公共心、社会貢献を育む取組 勤労奉仕的活動、部活動、学校行事 生徒理解の推進 いじめアンケート、教育相談(各年3回) 生徒理解研修の実施 組織的な指導、生徒指導部会、いじめ防止委員会、情報共有 いじめに関する研修、問題行動に関する研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・多感な生徒たちによる集団活動が難しい課題になってきていますが、しかしながら、生徒間同士での思いやりが生まれる様に指導願いたいと思います。 ・登校時、JR加佐登駅周辺でほとんどの生徒は1列で自転車を走らせていますが、一部、友だちと話しながら並走している生徒がいて、混雑することがあります。駅前の送迎車の停車と重なると、ヒヤツとする。 	<p>事故報告件数が示す通り、学校全体として落ち着いた学校生活を送ることができました。事件が発生してからの適切な対応だけでなく、未然に防ぐ体制が構築できていた成果であるので、この体制と姿勢を維持していきたいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動においては、生徒会を中心に、各専門委員会で活動していました。次年度においては、より活発になるように、各クラスや部活動での活動に広げていきたいと思っています。 ・校則の見直しを推し進めている中で、生徒会を中心に、既存のルールについて再検討していきたいと思っています。 ・いじめ防止の活動の推進に努めていきたいと思っています。 	
		成果と課題（達成状況を含む）			
		<ol style="list-style-type: none"> コロナ禍において、感染対策を実施しながら班活動に取り組んだ。また、あいさつ運動の充実を図り、生活委員は隔日で行うことができた。 交流福祉委員会を中心に募金活動や、ベルマーク収集活動に積極的に取り組むことができた。部活動では東海、三重県大会に出場するような実績を挙げた部が複数あり充実していた。 いじめアンケートや教育相談などを毎学期実施し生徒理解に努め、事故報告件数も昨年より減らすことができ、落ち着いた生活を送ることができた。 			
人間形成 （すずか夢工房・キャリア教育・職場体験学習）		<ol style="list-style-type: none"> 生き方を考える取組 「生き方学習」を開催、読書活動の推進、命の出前授業 系統的なキャリア教育の推進 ようこそ先輩、すずか夢工房 生徒会・委員会の主体的な活動 生徒会執行部による学校行事の企画・運営 交安委員会での交通指導、図書委員会での図書室利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来を考えるきっかけにもなると思うので、今後も職場体験学習は実施してほしいと思う。 ・コロナ禍、職場体験学習が、実施できコロナでの学校生活が続いた子どもたちにホッとできる時間になったと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習は生徒たちは楽しみにしており、校外で活動し、社会の人々の働き方に触れる貴重な機会となるので、今後もぜひ実施していきたい。キャリア教育という視点もあるが、学校と地域とのつながりや連携のためにも必要な活動だと考える。 ・進路通信や学活を通して、必要な情報を発信し、生徒の関心をひく工夫ができた。進路説明会の内容をクラスルームに提示しておくことで、保護者が後からでも確認できるようにできた。他学年のクラスルームにも資料やスライドを提示するべきだったと感じる。 ・本の紹介や掲示物の作成など、様々なジャンルの本に興味を持てるよう、図書委員会を利用して図書館の利用数の増加を目指していきたい。 ・交通安全委員会に関しては、生徒主体の交通安全運動がどのような形で行われるべきなのか、見直しが必要だと考える。 ・生徒会活動が、生徒にとってより充実するように、整理、精選、改革（後期生徒会役員選挙の時期の変更等）を考えている。 	
		成果と課題（達成状況を含む）			
		<ol style="list-style-type: none"> 生き方を考える取組 昨年に続き全校での「生き方学習」としては中断をしている。人権落語を実施し、人とのコミュニケーションや人権について考えることができた。 系統的なキャリア教育の推進 職場体験学習の実施 生徒会・委員会の主体的な活動 生徒会執行部による学校行事の企画・運営 交安委員会での交通指導、図書委員会での図書室利用促進 			
人権教育		<ol style="list-style-type: none"> 人権教育推進計画に基づく人権学習を軸に、全教育活動を通しての人権教育の実施 校区人権フォーラムの推進、いじめ防止標語の取組 グループエンカウンターやアサーションを中心としたSSTの取組 「生き方学習」を通しての人権教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS上の人権問題に立ち向かう力が求められています。引き続きお取組をお願いします。 ・人権については、「家庭での親の背中」も子どもたちに良い手本になるのでは。 ・いじめ問題はいつになっても、考えていなくてはならないと思う問題だと思うので、このような学習は良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年人権学習を計画的に取り組んでいるが、SNSを使った人権侵害がどの学年でも日常的に起きていることから今後も教育相談やいじめアンケートを進めていきたい。 また、それぞれの個性や考え方を認め合えるようにより深い学習を進めて行く必要がある。 	
		成果と課題（達成状況を含む）			
		<ol style="list-style-type: none"> 各学年人権学習の取組 (主な取り組み内容 1・2年：多文化共生、3年：平和学習、子どもの権利条約) 校区人権フォーラム 11月24日(木)白鳥中学校にて実施 終業式前に還流報告 SNSやインターネットを使った人権侵害について、講師等による講演を聞いた。 人権落語を実施し、身の回りにある「いじめ」について考えた。 			
地域等連携		<ol style="list-style-type: none"> 学校だよりの発行 学校ホームページの更新 近隣校との連携(出前授業、交流授業、授業参観) 学校運営協議会での熟議と具体的取組の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携については運営協議会だけではなく、地域の民生委員(児童相談員)だけで「各まちづくり協議会」とも情報交換しながら、進めたいと考えます。 ・コロナ禍で、参観が難しいこともあったが、工夫されていると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ禍の中でも、体育祭では3年生の保護者に参観していただくことができた。文化祭では感染者の増加で直前で参観を中止することになったが、動画配信で様子を見ていただくことができた。 ・学校運営協議会では地域の方々が、学校の様子や子供たちの様子をとても暖かく見守っていただいていることがわかった。今後も地域の方々にもホームページや通信を通して情報を発信していきたい。 	
		成果と課題（達成状況を含む）			
		<ol style="list-style-type: none"> 学校だよりの発行 年5回 学校ホームページの更新をもう少し増やしていきたい。 校区で人権学習の授業を参観しあった。 学校運営協議会での学校での取組について熟議をおこなった。(学力、勤務時間、不登校対策、特別支援等) 			